

令和六年十二月十六日 第二十一号



岩國白蛇神社崇敬会会報

◎今年度に齋行された祭典・行事

【月次祭】四月～九月(月二回)

※参列者の延べ人数は百九十二名でした。

【四月】令和六年度

神社会計監査(二十五日)・昭和祭(二十九日、二名)

【五月】

第十四回総代会(十一日、十四名)

【六月】

崇敬会会計監査(二十五日)

夏越の大祓(三十日、三十名)

【七月】

白蛇神社崇敬会役員会(六日、七名)

【八月】

大掃除(四日)・白蛇供養祭(十六日、二十五名) ※保存会主催

【十月】

マウス供養祭(十二日) ※保存会主催

神宮神嘗奉祝祭

(十七日)

【十一月】

明治祭(三日)・新嘗祭(二十三日)

【十二月】

大掃除(一日)・例祭(十六日)

年越の大祓(三十一日)

【一月】

歳旦祭(一日)・元始祭(三日)

【二月】

節分祭(三日)・紀元節祭(十一日)

祈年祭(十七日)・

天長祭(二十三日)

【御鎮座十二年祭について】

昨年の例祭(十一年祭)では、齋主始め齋員はマスク無しで奉仕をしました。やつとコロナ禍を乗り越え、拝殿には参列者の賑はいの中、安堵感をもって祭典を終了することができました。



になったと言ふことです。

今年で創建から十二年目を迎へることになりました。当社においては大きな節目を迎えることになりました。それは、神社本庁と包括関係を設定すること

平成二十四年十二月十六日の鎮座祭では、山口県神社庁岩国支部の神職の方々の全面的な御協力を得て、地域住民と共に、厳島神社から御祭神をお迎へして御鎮座の大祭を齋行しました。十二年祭を迎へる前に、やつと約束を果たすことが出来ることに多くの方々には達成感を味はつて頂くことが出来るのではないでせうか。

※上の写真は昨年度の例祭です。

◎来年度(令和七年度)予定

【四月】

昭和祭(二十九日)・総代会(未定)

【五月】

端午の節句祭(五日)

【六月】

夏越の大祓(三十日)

【七月】

七夕祭・崇敬会役員会(未定)

【八月】

大掃除(三日)

【十月】

白蛇供養祭(十六日)

【十一月】

マウス供養祭(十一日)・神宮神嘗奉祝祭(十七日)

【十二月】

明治祭(三日)・新嘗祭(二十三日)

【一月】

大掃除(七日)・例祭(十六日)

年越の大祓(三十一日)

【二月】

歳旦祭(一日)・元始祭(三日)  
 【二月】  
 節分祭(三日)・紀元節祭(十一日)  
 祈年祭(十七日)・天長祭(二十三日)

■令和七年の月次祭

《乙巳》きのとみ

【一月】	十二日(土)・二十四日(火)
【二月】	五日(日)・十七日(金)
【三月】	一日(水)・二十五日(土)
【四月】	六日(木)・三十日(火)
【五月】	十二日(日)・二十四日(水)
【六月】	五日(月)・二十九日(土)
【七月】	十一日(木)・二十三日(日)
【八月】	四日(金)・二十八日(水)
【九月】	九日(月)・二十一日(木)
【十月】	三日(火)・二十七日(日)
【十一月】	八日(金)・二十日(月)
【十二月】	二日(土)・二十六日(火)

※巳の日は三度ある月は、月初めと月末の巳の日は月次祭となります。(月二回巳の日、九時半より)

令和六年厄年表(数へ年)

【男性】

本厄	二十五歳(平成十二年生)
	四十二歳(昭和五十八年生)
	六十一歳(昭和三十九年生)

【女性】

本厄	十九歳(平成十八年生)
	三十三歳(平成四年生)
	三十七歳(昭和六十三年生)

当神社での厄祓祈願を希望される方は

事前に御予約をお願い致します。祈願された方には、祈禱した木札と御守・御神酒等の撒饌が授与されます。

【崇敬会会員継続のお願い】

来年度(令和六年度)の会員継続の方のために払込取扱票を同封しましたので、宜しくお願ひ致します。なお、会費の納入については、社務所でも承つてをります。

「新しい御札をお祀りしませう」

新年を迎へるにあたり、神棚を清め、新たに受けられた御札をお祀りします。新しい御札には、この一年をお守りいただく御神霊の力が宿されてゐます。お伊勢さまの御札(神宮大麻)を受けられる方はお申し出ください。今までお祀りしてゐた御札は、過ぎし一年が無事に過ごせたことに感謝し社内に納めます。社務所には一月八日まで御持参ください。お祓ひの後に、錦帯橋河原で行はれる「とんど祭」にて、お焚きあげします。



当社では、神宮と合はせて、大受けて頂くお願ひをします。

【令和五年度崇敬会役員会】

七月十五日(土) 六月十五日崇敬会の監事である中村さんと二宮さんに令和四年度の崇敬会の会計監査をお願いしました。出納簿・関係諸帳簿・領収書・預金通帳等の監査をして頂きました。その結果、いづれも誤りのないことを確認し、七月十五日の役員会にて報告して貰ひました。尚、差引残高百三十六万四千四百三十円については、五年度に繰越すこととしました。

また、今年度の事業として、境内地の整備(側溝の蓋工、外用物置の設置、駐車場の砂利敷)が決められました。会員の皆さまには改めてお札を申しあげます。 ※次頁に写真を掲載してゐます。

〔令和4年度崇敬会収支決算書〕

《歳入》	振替入金額	¥ 485,768
	預金入金額	¥ 315,000
	前年度繰越	¥ 1,498,653
	合計	¥ 2,299,421
《歳出》	振替手数料	¥ 23,987
	郵送関係費	¥ 88,716
	会議費	¥ 31,350
	会報等印刷費	¥ 20,812
	注連縄3本費	¥ 800,200
	神社への奉納	¥ 100,000
	事務費	¥ 27,052
	寄附金	¥ 5,000
	合計	¥ 1,097,117

◎ 会員数・二七二個人と十七団体

(十月末現在)



今津天満宮側の側溝の蓋工

西側側溝の蓋工と駐車場の砂利敷き



外用物置の設置

【「神社本庁史稿」解説】(十四)

《靖国神社の国家護持》その二

昭和二十六年サンフランシスコでの対日講和条約が調印され、それ以来吉田茂首相をはじめ歴代首相（昭和四十九年田中角栄首相まで）は春秋例大祭に、疑ふこと無く公式に参拝しました。（昭和二十年十月に二度幣原喜重郎首相が参拝）

昭和二十七年十月天皇陛下（昭和天皇）におかせられては靖国神社に御親拝、以後昭和五十年までに七回行幸されてゐます。

昭和五十年八月十五日に靖国神社へ参拝した三木武夫首相が私的に参拝したと声明しました。それ以来、公的か私的参拝か、といふ異常な状態が続いてゐました。

昭和六十年内閣官房長官の諮問を受けた「靖国懇」によつて、首相の公式参拝は違憲に非ざるの答申が出される。よつて、その八月十五日に中曽根首相が公式に参拝をしましたが、次の年には中共の恫喝により参拝をしませんでした。以後、平成十三年まで、小泉首相が十六年ぶりに公式参拝するまで首相の参拝は行はれませんでした。

そして、平成二十五年十二月に安倍晋三首相が十二年ぶりに靖国神社に公式に参拝しました。

《続く》

《白蛇についての創作民話》紹介(Ⅱ)

『一実録―岩国白蛇物語』(最終回)

金田 惺作

千石原に産み落とされた卵が孵化して人間に捕らえられたのです。「岩国年代記」により

ますと、元文三年（一七三八）六月三日の事でした。千石原の御門あたりに一頭の白蛇が出た。長さ五尺、胴回り四寸、医師に見せたところ白蛇にちがいない。御薬方に調べさせた。白蛇のうち銀蛇、金蛇は用に立たず、「日計」という蛇は毒蛇で、食べば一日で死ぬ、白蛇の形は鱗（黄白三角形）籐組の様に見える、目の周りは紅で、頭は平たく、口は広く歯の上の方は具の目二通りあり、下の歯は一列に生え、尾は打ち切られた様で、蝮の尾に似ている。この白蛇は御馬屋において医師が立ち会い、堅割りにして、あぶら干しとし御納戸に囲わせた」と、詳しく書き記されました。藩主様の何らかの病の折の漢方薬とされたのでありましょう。

浩蛇と花蛇は奇跡的な出会いでした。子孫たちはメンデルの法則を何十代も繰り返し、純白となったのだと思われまふ。人間達は弁財天様のお使いだと大事に守ってくれたのです。

幕末、文久三年（一八六二）に書かれた「錦川志」には「官舎の西側の米蔵に二頭の白蛇がいる。長さは四尺余、納戸の人々はよくこの白蛇を見る」とあります。ここで始めて複数の白蛇がいたことが書かれました。

二十世紀初頭の記録によりますと、今津米蔵に五百頭とあります。二百年近くも生き続けておりますのに、なぜか伝承がありません。民話も残っていません。大正の始め頃まで今津の人々は白蛇がいることを、何らかの事情で他人に話さなかつたようです。西岩国の人ですら知らなかつた山口県の調査記録に残っています。

つらつら考えますに、「何らかの事情」とは、封建時代のこととて、幕府または、どこかの殿様が「不老長寿」の薬などと言われて、

捕獲を命じられないよう、今津の知恵者が頭をしぼって先手を打ち、何らかの祟りがあるなどの伝承をつくり、口封じたのではないでしょうか。

昭和三十年頃までは、自然界に二千とも一千五百頭ともいわれる白蛇がいましたが、三十七年には八百を割りました。危機感を持った岩国市は「白蛇保存会」を創った森橋新一さんたちに協力を求めました。しかし、白蛇の数は減る一方で四十六年には百五十〜二百となりました。野崎愛吉さんは自分の家を開放して百五十頭もの白蛇を飼ってくれました。自然のままでは絶滅するところでしたが、多くの人達が助けてくれ、ようやく生存を続けることが出来たのでした。平成に入った頃より増えだし、十一年には千頭を回復したのです。人間社会の出す「毒素」によって自然界では生きられず、放飼場が造られて、そこで生き続けていますが、人間達は毒を出し続けますので、人も蛇も百年後まで生き続けることが出来るのでしょうか。「人蛇共同社会」がいつまでも続くことを祈るばかりです。

「完」  
この民話の創作者である金田愷さんは白蛇保存会の監事を平成二十四年まで務めました。

【社報で推薦した図書一覽】

令和五年七月号〜令和五年十月号

○『サイレント国土買収』

平野秀樹 著、角川新書

○『日本語が消滅する』

山口仲美 著、幻冬舎新書

○『世界を動かした日本の銀』

磯田道史 著、祥伝社新書

○『ジャパニーズ・モダン』

三樹正典 著、レタープレス社

○『腹黒い世界の常識』

島田洋一 著、飛鳥新社



右の三樹正典氏の著書「ジャパニーズ・モダン」を神社社務所にて千五百円にて頒布してあります。冊数に限りがありますので、電話にて御注文ください。

参拝記念

画(第三弾)の授与も行ってあります。

限定二十幅(二千円)



【白蛇供養祭】

八月十六日(水)

(一財)岩国白蛇保存会の森橋会長を始め、岩国市議会議長、教育委員会教育長等約三十名の参列の中、五十九回目を迎へた供養祭でした。今年命を落とした白蛇の霊を慰めると共に、岩国白蛇の御魂に白蛇の長寿と、故郷岩国の発展を懇ろに祈願を致しました。祭典後



には、岩国市の福田市長と岸信千世衆議院議員からのメッセーが披露されました。また、当日夕方NHKニュースにて供養祭の様子が報じられました。

◎令和六年のカレンダーを授与してあります。

- 皇室カレンダー 1000円
- 伊勢の神宮カレンダー 800円
- 靖国神社カレンダー 500円

※ 数に限りがありますので、電話にて御注文くださいませ。